シラバス参照

授業科目名	コミュニケーション論
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	6526
授業担当者氏名	米津亮(コネツ リョウ) 田中繁治(タナカ シゲハル) 森下佑里(モリシタ ユリ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	<ul style="list-style-type: none"> ●医療従事者として実践する基本的態度や行動について、理解できる(DP2,4,7,8,9)。 ●医療従事者として自分軸を形成する態度や行動を修得する(DP7,8,9) 																								
授業概要	本授業では、リハビリテーションの医療従事者として兼ね備えないといけないコミュニケーション能力について教授します。そのためには、他の気持ちを理解すると同時に、医療従事者としての考えを基にコミュニケーションを図る能力が求められます。このような点を、ディスカッションやロールプレイ、さらにはプレゼンテーションなどを通して、学修してもらいます。																								
科目ナンバリング	1-ZKK-7-A23-1-1																								
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。																								
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html																								
授業の特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>D: グループワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>I: 反転授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		B: 課題解決型(PBL)連携なし		C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○	D: グループワーク	○	E: プレゼンテーション	○	F: 実習、フィールドワーク		G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○	I: 反転授業		J: 外国語のみで行われる授業		K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
特徴	該当																								
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり																									
B: 課題解決型(PBL)連携なし																									
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○																								
D: グループワーク	○																								
E: プレゼンテーション	○																								
F: 実習、フィールドワーク																									
G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)																									
H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○																								
I: 反転授業																									
J: 外国語のみで行われる授業																									
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業																									
実施形態	対面授業科目																								
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目：授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目：上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。																								
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーションおよびロールプレイ①(挨拶: 自己紹介)(担当: 米津、田中、森下)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ロールプレイ②(挨拶: 医療従事者としての配慮)(担当: 田中、米津、森下)</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーションおよびロールプレイ①(挨拶: 自己紹介)(担当: 米津、田中、森下)	第2回	ロールプレイ②(挨拶: 医療従事者としての配慮)(担当: 田中、米津、森下)																				
第1回	オリエンテーションおよびロールプレイ①(挨拶: 自己紹介)(担当: 米津、田中、森下)																								
第2回	ロールプレイ②(挨拶: 医療従事者としての配慮)(担当: 田中、米津、森下)																								

	第3回	ディスカッション①(自分軸の形成:自分史の振り返り)(担当:田中、米津、森下)
	第4回	ディスカッション②(自分軸の形成:文化とのつながり)(担当:田中、米津、森下)
	第5回	グループワーク①(伝える能力、プレゼンテーション資料作成)(担当:米津、田中、森下)
	第6回	グループワーク②(伝える能力、プレゼンテーション資料作成)(担当:米津、田中、森下)
	第7回	プレゼンテーション(医療従事者としての基本的態度からみえるコミュニケーション能力)(担当:米津、田中、森下)
授業外学修 予習(事前学修)	各授業 [平均 100分]	本授業では、ロールプレイやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に導入しています。事前学修をしっかりと、授業に臨んでください。
授業外学修 復習(事後学修)	各授業 [平均 100分]	授業を通して学修したことを、しっかり復習してください。
評価方法	プレゼンテーション50%、レポート課題50%で評価します。	
教科書等	教科書は指定しない。授業資料は、Manabaに掲示するので、必要に応じて各自印刷してください。	
課題に対するフィードバックの方法	manabaの個別指導コレクション等を使用して、適宜フィードバックします。	
その他	この授業は、2年次の各専攻の臨床実習に知識・技術を活用することが出来ると思います。当然と思えることを、医療従事者として観点から理由付けして、しっかり身につけていきましょう。	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	担当者は、病院・施設で医療従事者として勤務した経験を有します。その経験を基に、医療従事者としての基本的態度からみえるコミュニケーションについて授業を展開します。	
ファイル		